
みんな大好き！ウルトラの街！

asuka1419

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みんな大好き！ウルトラの街！

【Nコード】

N4003Y

【作者名】

asuka1419

【あらすじ】

もしも、平成ウルトラマンたちが怪獣と仲良く住んでいたら？そんな疑問から始まりました。たまに、仮面ライダーたちも登場します。

不定期更新です。

ウルティメイトフォースゼロがやってきた！

ここはとある宇宙の中にある地球ー。

その星には、ウルトラマンたちが住んでいた。

ダイゴ「いやー、平和だねえ。」

アスカ「そうっすねえー。」

平成街。

主に平成のウルトラマンが住む街である。

お隣は昭和町、もうひとつお隣は仮面ライダーの町。

ヒーロー同士仲良く暮らしていた。

そして・・・。

ゴルザ「グオオオン。」

メルバ「くえー。」

怪獣たちも仲良く暮らしていた。

・・・人間サイズで。

ここに、新たな仲間たちがやってきた。

ゼロ「ここか、俺たちの住む街は。」

グレン「そうらしいな！」

ナイト「いい街ですね。」

ジャン「さて、入るか。」

ウルティメイトフォースゼロのメンバー、

ウルトラマンゼロ。

グレンファイヤー。

ミラーナイト。

ジャンボットの4人（？）である。

ゼロ「ちわーっす・・・」

突然の訪問者に、街の住民は驚いていた。

住民A「きゃあ！？ウルトラマン！？」

住民B「え、なんか銀色のもいるけど？」

住民C「赤いのはウルトラマンじゃないでしょ、たぶん。」

住民D「おいしそうな感じのするロボもいるね。」

さまざまなことを言われながら、街中を見物している4人の前に、何かが現れた。

カイト「あゝ、新しく来たウルティメイトフォースゼロのみなさんですね？」

ゼロ「あんたは？」

カイト「僕はトウマ・カイトです。この街のボランティアをしています。さ、こつちへきてください！

みんな待ってますから。」

グレン「みんなって？」

カイト「とにかくみんなですよ。」

一瞬不気味な笑いを浮かべたカイトは内心、

『この人どつかで見たことが・・・』

と、ゼロに向かって首をかしげていた。

ウルティメイトフォースゼロがやってきた！（後書き）

はじめまして、a s u k a 1 4 1 9です。
これからよろしくお願いします！

歓迎会の喜(悲)劇(前書き)

歓迎会に呼ばれた

4人達。

さて、何が起ころやら・・・。

歓迎会の喜(悲)劇

ゼロ「おーっ！結構すごいな！」

カイト「そりやそうですよ、キングも来ているんですから。」

グレン「キング？」

ゼロ「ウルトラマンの中で一番偉くて一番年をとったお方だ。」

5人は歩いていった。

ここは街で一番大きいドーム。

その名も『ガイアとアグルが喧嘩して出来たおかしなドーム』
略して『ガイアグルドーム』である。

ナイト「(この略し方はおかしいと思う……。)」

ジャン「(私もだ)」

会場――

「がやがや」

ムサシ「えー、みなさんお静かに！これから『ウルティメイトフォースゼロ歓迎会』をはじめます！開会の言葉、ヒウラキャップ、お願いします！」

ヒウラ「えー、なぜか隣では我夢ちゃんと藤宮くんが変身して大喧嘩しているわけですが……。」

ジャン「(絶対このドームのせいだ……)」

ヒウラ「この度新しい仲間がこの街に来ました！皆さん盛大に歓迎しましょう！！」

「……わあー！！」「……」

会場は大盛り上がり。そんな中、一人だけ落ち込んでいる人が……。

カイト「orz」

トウマ・カイトである。

何ゆえ彼が落ち込んでいるのか。

その原因は高山我夢と藤宮博也の喧嘩を止められなかったことにあった。

そんな彼に誰も気づかない人々・・・。

彼は隅っこで体育ずわりをしていた。

ゼロ「うお！この鳥の丸焼きうめえ！！」

バードン並みの大きさの七面鳥の丸焼きをかじっていた。

グレン「ファイヤーアツアアアアアアア！！！！」

ミライ「おお！すごい炎ですね！僕も負けなぞ！！」

「メビウーーーーーース！！」

メビウス「でああああああ！！」

なぜかメビウスがバーニングメビュームダイナマイトでグレンに對抗し。

ナイト「・・・」

孤門「・・・」

ミラーナイトと孤門一輝が睨み合い。

ジャン「はっはっは。」

エリー「あははは」

ジャンとエリーが意気投合するという、普段は見れない状況になっていた。

そして・・・。

ゼロ「あー！俺が狙っていたフルーツパフェ！！」

西条「何？これは私が最初から狙っていたものよ。」

ゼロ「畜生！そのパフェをかけて勝負だ！！」

西条「望むところよ！！」

西条凧の変身したネクスス（アンフランス）がゼロと勝負をはじめ。

グレン「まだまだあ！！ファアイヤアアアアアア！！！！」

メビウス「ハアアアアアアアアア！！！！」

グレンとメビウスが取っ組み合いをはじめ辺りは燃え盛り。

ナイト「フツ！ハツ！！」

孤門「てい、やあ！」

なぜか孤門とナイトが空手をはじめ。

ジャン「私なんて焼き鳥だのなんだのって・・・」

エリー「私は『お兄ちゃん』だのなんだのって・・・」

ジャン・エリー「壊してやる・・・、太陽なんて！！！！」

ジャンとエリーがやさぐれていた。

さらにこの状況に堪忍袋の緒が切れたムサシがコスモス（コロナ）

になりネイバスター光線乱れ撃ち。

会場は一時騒然となった。

結局、千樹憐がジュネッスブルーに変身し、アローレイ・シュトロ

ームを狂ったように撃ちまくり、事態は収束した。

千樹「・・・」

「「「ごめんなさい」」」

ムサシ「えー、今日はこれでお開きにします。最後に、ウルトラマ

ンキングからお話をいただきます！」

キング「えー、あー、うー、そのー、あー。」

アスカ「（イライライラ）」

キング「若い者達よ、協力してこの街を盛り上げてくれ・・・」

「「「おおーーーーー！！！！」」」

こうして歓迎会は終わった。

歓迎会の喜(悲)劇(後書き)

一番怒らせたら怖いのは

きっとダイゴさんです。

キングの声は小泉純一郎さんです。

私は小泉さんが総理だったところが一番よかったと思うのですが
どう思いますか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4003y/>

みんな大好き！ウルトラの街！

2011年11月16日05時54分発行